

2015年  
6月16日  
火曜日

# 男女関係と仮マッチング

猪野 弘明 准教授 (産業組織論)

私がアメリカで暮らしたときに知って驚いたことの1つに、男女の関係におけるdatingという考え方がありました。日本で男女が付き合うときは「好きです」と言った告白から始まり、一度カップルになってしまえば（人による程度の差はあるかもしれないが）浮気は許されないと、いう感覚が一般的です。しかし、アメリカにおけるdating期間は本格的に付き合う前のお試し期間のようなもので、あまり拘束的なものではなく、わりと気軽に解消できるようです。「あなたに興味があるから、デートしてみよう」という関係で、その間にもっと良い人がいればそちらに乗り換えてもよいと認識されているのです。

このようなことを聞くと、日本的な感覚では軽いと思われるかもしれませんが、経済学でマッチング理論といわれる分野の研究成果としてよく知られるゲール・シャプレー・メカニズムを通して見ると、なるほどと思われる節があります（提唱者の一人、ロイド・シャプレーは2012年のノーベル経済学賞受賞者です）。このdating期間のような「仮マッチング」が安定的なマッチング（組合せ）に行き着くための肝だからです。

ゲール・シャプレー・メカニズムを男女関係で解釈すると、アプローチする側はどんどん自分の好きな人に順にアタックする、言わば肉食系です。アプローチされる側はそれに答える受け身の草食系ですが、代わりに、仮マッチングでキープしていてもっと良い人が現れたら乗り換えをします。すると、もちろん様々なカップルの組み合わせができいくわけですが、最終的には「誰

も別れて別のカップルを作る動機がない」という安定マッチングの状態に行き着くことが理論的に知られています。

では何故安定するのでしょいか。まずアプローチされる草食系のほう、この仮マッチングによるキープという「逆襲」によって、乗り換えるを繰り返していけば自分の願望を満たすことができ安定します。アプローチする肉食系にとつてはどうでしょう。本当はもっと好きでも人

が仮マッチングを繰り返していることを知ることになるからです。もし後からアプローチしても、自分のほうが良ければ容易に乗り換えてもらえるわけです。ということは、最初から嘘をつかずに一番好きな人から順にアタックするのが合理的です。結果、そもそも良い人から選んでいるので、別れる動機はなく安定的になるといわれます。

参考文献…ここで述べたゲール・シャプレー・メカニズムについては、『ミチと学びたい場合は、まずは『ミクロ経済学』林貴志（ミネルヴァ書、2007）の22章2マッチングの項を読むことをお勧めする。メカニズムの数学的な構造が、難しい前提知識を要求せずについた4ページで簡潔明瞭に解説されており、非常に分かりやすい。